

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム ゆいっこ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200501		
法人名	社会福祉法人志和大樹会		
事業所名	グループホームゆいっこ		
所在地	〒028-3453 岩手県紫波郡紫波町土館字関沢24-1		
自己評価作成日	平成 22 年 8 月 10 日	評価結果市町村受理日	平成 22 年 11 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372200501&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 22 年 8 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人一人の個性を尊重し、本人の生活スタイルを守りながら皆で楽しく役割のある生活を基本に支援しているし、様々な外部研修に職員全員が順番に参加する機会を与えていただき2ヶ月ごとに開催されている勉強会で職員全員にフィードバックされ職員のスキルを上げる事につながっている。
 ・ゆいっこの事を知って頂く為に様々なボランティアさんの受け入れをしたり、地域の行事に参加したり、地域の皆様に広報を通じて理解して頂く努力をしているし、管理者は「認知症の理解」をして頂く為に様々な団体に講演をしている。また、「認知症なんでも相談所」で様々な相談を受け行政との連携も構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「役割のある生活」を理念として掲げているだけでなく、その実践に向けて利用者と職員が、気を使わない「お互い様」の姿勢で取り組んでいるが、それは正に家族のような真摯な関係で接することで実現を図っている。また、取り組みのレベルアップを図るために、様々な研修に管理者だけではなく職員も積極的に参加し、報告し合うことで職員全員のスキルアップにつながっている。なお、ケアする中で、理念と職務の間で、矛盾が生まれることがあっても、すぐに職員同士が話し合う場ができていことから、運営に対する意見を発言しやすい環境にあり、今後ともよりサービスの質の向上が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム ゆいっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の個性を大切に「役割のある生活」を理念とし、毎日入居者の方が役割のある生活が出来るよう些細な事も職員が共有している	利用者の「役割ある生活」を大事にするこだわりを持つことで、「生活する」を味わっており、これが利用者職員は当たり前前の生活姿勢として気を使わない「お互い様」を実践で活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の行事に参加したり、広報を小学校を初め警察署、消防署、近隣住民等入居者が自ら配布しに言っているし、行きつけのスーパーで買物をし馴染みの関係を作っている	地域の一員である事業所として地域の行事に参加、交流を図るとともに、広報「ゆいっこ通信」を配布するなどして近隣の方々や関係機関の理解、支援を得よう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が公民館等町内をはじめ様々な団体へ認知症の理解について講演し、理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回定期的開催し、職員も参加し会議の内容を理解しているし、他のGHへ視察研修を毎年開催している	運営推進委員が、県内の他ホームを訪問し運営や活動の取組状況等を学習する機会を設けており、それが運営推進会議の意見交換等の中で活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業者懇談会を開催し情報の共有や相談事例等連絡を密にしているし、毎月相談員2名が来所し、入居者と会話する事で状態を観察されている	行政とは日頃から連絡を密にしており、気軽に相談、話し合い出来る関係にある。なお、町が毎月派遣する相談員と利用者との会話から新たな面を発見するときもありそれをケアプランに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止検討委員会のメンバーにGHの職員も参加し、会議の内容は他の職員にも伝達しているし、GHの勉強会にも取り入れ全員で身体拘束をしないケアを実践している	法人やホーム内の勉強会や研修会を通じて身体拘束の弊害を全職員が理解しており、身体拘束に関わる事態が生じるときは、職員全員で話し合う場を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会等で学んだ内容を職員全員で共有するように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	紫波町の行政で開催する研修会に管理者と職員2名が参加し、部署会議で内容を他の職員に伝えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に十分な説明をしているし、入居後も不明な点にはその都度説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	認知症何でも相談所になっており看板も出しているし、玄関には意見箱を設置している	家族会の開催時や家族の面会時、電話連絡の機会を通じて意見や要望を聞いている。なお、当ホームの特色は「認知症なんでも相談所」として地域の方々の相談窓口となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の主任会議で議題提出の機会があるし、部署内での勉強会は職員からのアンケートで内容を決めている	「自己評価スケール」を用いて全職員にアンケートを行い、困っていること等を把握し面談を行うなど職員の意見を大切にする関係をつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規定に準じた身分が保障されているし、正職、臨時のかき根がない。管理者は職員を常にサポートしてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外への研修は特定の職員のみならず参加する機会をつくっている。研修に参加した人は勉強会で明さんにフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間での交換研修を実施し、交流を図っているし、他のグループホームの見学等も積極的に受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と面会し、お話を伺っているその際には現場の職員も同席し、本人の状態把握に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に「ゆいっこ」で大切に思っている関係作りについて説明し、なんでも言い合える環境に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から「ゆいっこ」でどのように生活して欲しいかを聞いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活者として入居者の皆様が常に主人公に慣れるように配慮しているし、わからない事や出来ない事を教えて頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしていても本人の状態がわかるように月1回ケース記録で報告しているし、変化があった時はその都度電話で伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋に行ったり、馴染みのお店に買物に行ったり、要望がある時は個別の対応もしている	利用者は以前は勤め人や農業経験者が多くホームではできるだけ近所の人やお友達、兄弟等の訪問をお願いし馴染みの関係が継続するよう努めている。ドライブを兼ねながら昔の思い出の場所に行く支援等をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの関係を把握し、一緒に過ごせる時間を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前はあったが現在はそのような事例はない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日その時の入居者の皆さんの状態や表情から思いを聞いたり、感じたりするように心がけている	利用者には「できることをできる時、できるだけ」行ってもらうことを基本としている。そのため普段から本人の意向や思いを散歩や会話、入浴時等の機会を利用して把握するよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や知人の方の面会時にこれまでの生活について聞いたり、本人の言葉で気になるような事があれば確認し、職員が共有してケアにつなげている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言動や表情から状態を把握し、その人にあった力の発揮の場面を作るように心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスは全職員で取り組み状態の変化に気が付いた時は直ぐに申し送りで検討している。ケアプランについて家族の意向を受け入れるための努力はしているが預ってもらってほしいとの考えの方が多い	家族アンケートを見ると「利用者本位のサービスの提供に心掛けている」「家での暮らしをそのまま引き継いでいる」「細かい所まで配慮している」等とケア支援に満足した意見が多いものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を活かしてカンファレンスやモニタリングをしているが情報の共有が徹底されていないところがある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回町の移動図書館が来所し、入居者の皆様の中には自ら本を選んで借りている。また、傾聴ボランティアにも月1回来ていただき、入居者の皆様との関わりを作っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医が週1回往診に来てくれ関係は蜜である	かかりつけ医の受診を基本とし、町内の医療機関の場合はスタッフが、また、町外の場合は家族が付き添いしている。なお、嘱託医による週1回の往診で健康管理について配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問もあるが特変がある時等に相談にのってくれるし指示を出してくれる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医及びNsとの関係は蜜で何でも想だ出来るが他の医療機関との連携はできていない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い本人にとってのベストなようたいについて話し合ったりご家族の要望を取り入れている	これまでの看取り経験を踏まえ、職員は対応できるとの自負を持っている。具体的には家族の意向をじっくり聞くとともに、隣接する特別養護老人ホームとの連携を図り看護師の支援を得る等万全な体制の中で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員は救命救急の講習に参加したり、入居者については緊急時のマニュアルや個別の特変時のマニュアルがあり職員全員で把握している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「ゆいっこ」独自のマニュアルがあり、定期的な避難訓練の実施及び地域防災協力隊との連携	防災計画に基づき法人合同(10月上旬)及び事業所独自(9月28日)の避難訓練を行う予定であり、訓練の際は近隣支援を得ながら実施する。なお、スプリンクラーは平成23年設置予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護やプライドを傷付けないようにする為声をかけるタイミングや場所に配慮している	利用者への声かけ等で利用者の誇りやプライバシーを損ねる恐れがあると気がついたときは、職員同士が、何でも言える雰囲気になっており、お互いを注意し合いながらスキルをあげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症を理解し、本人が自己決定できるようにわかりやすい選択肢を心がけて声かけをしているし、言動や行動の制限をしないで見守っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の当日の訴えや状況によってその時の入居者に合った過ごし方をして頂けるように努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に着る服を選んでいただいたり、実際に鏡を見ながら洗顔や整髪をして頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	365日生活共同者として職員と入居者は一日を送っているため声をかけなくても自ら進んで何でも手伝ってくれるし、手伝いたくても表現できない入居者も居るのでその人の思いを感じれるようにしている	利用者・職員のそれぞれの役割が分かっており、声掛けせずともお互い「気配り、目配り、心配り」を大切にしながら自然に行っている。食事の際もADLが低下している方に利用者が手を差し伸べ、できることを支援していた。	体力の低下などで、したくてもできない利用者の方に対する気配りは今後も増えていくと考えられるので、意識して継続することを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量はチェック表に記録しておりバランスが取れるように取り組んでいるし、一人一人に合った形状や量にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアには日々取り組んで入るが徹底されていない為県歯科衛生士会の指導をいただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄マニュアルを使用し、チェック表で排泄パターンの把握に強め、本人のプライドを傷つけないような声かけをしたり、居室で交換する事が覆い方も出来るだけトイレで排泄が出来るように声を掛けている	トイレ誘導の際は「お願いがあるので一緒に行ってくださいねか」等と声かけに工夫するほか、オムツの取りかえは必ず居室で行う等配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らないで毎日乳製品を取っていたり、オリゴ糖の摂取を試みたり、食事の内容を検討したり、看護師に相談したりして工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は決めないで入りたい時に入れるように取り組んでいる。入浴拒否のある方も職員が対応について話し合い様々な声かけを工夫している	入浴は、10時～21時までの間に何時でも入浴できる。入浴の際は同性介助の他に、本年から異性介助も行うこととし、これまで入浴を嫌がった利用方も入浴するようになったとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や体調の状況を把握した上で本人の要望に合うように対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬監理表を作成し薬の効能なども理解できるように取り組んでいるし、囑託医や看護師とは常に連携をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「役割のある生活」という理念のもと家事やそれぞれの特技を活かした生活が出来るように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在入居している方は認知症が重度の方が多く環境の変化に混乱したり不穏になったりする方も居て以前のように頻繁に外出をする事が出来なくなってきたが花見や外食・バスハイク・温泉等は実施している	できるだけ外出する機会を多く持ちたいとする中で、入居の長期化と重度化傾向と相まって日常的な外出が少なくなっているとしている。しかし、季節の変化に応じた花見や温泉利用など、利用者が楽しめる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の買物などは入居者に財布を持っていただき見守りと声がけで、支払いもして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は自分から手紙を書いたり電話をしたりする方も居たが現在はなく、家族から電話を頂いた時や家族へ用事があって電話をした時に電話に出ていただいたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所がわかるように絵で表示したり、電気の明かりが反射して混乱する方も居るので和紙で張り紙をしたりしているし、テレビの音にも配慮している	和紙で覆った間接照明により落ち着いた柔かい雰囲気を出している。窓にはすだれをかけ、涼しい風が入る共用空間は適当な広さで、畳の小上がりがあり、テレビやカラオケセット等もあり、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・廊下・テラス等に椅子を置き少人数で過ごせる場所になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は皆さん自分が使用していたものなので個性が現れているが個々の部屋の環境作りはまだ不足している面がある	居室には家族の写真や、お人形、鏡台のほか、季節に合わせ花を飾っている利用者もあり、それぞれの好みに応じているものの、より心地よい空間を作ることができるよう検討中としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態が日々変化しているので、入居者の目線に合わせた配置を心がけている		